



K-I-F-A Plaza

第46号

2002年（平成14年）11月11日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市初富928-744
TEL 047-445-1141（内550）
FAX 047-441-9400
<http://www.kifa.gr.jp>

いばらき漫遊 バスの旅

いにしえを訪ねて 水戸黄門ゆかりの地めぐり 「西山荘」「偕楽園（好文亭）」
新しい いばらき 「アクアワールド大洗」「大洗マリンタワー」
おみやげは 那珂湊 「おさかな市場」

西山荘前庭(1号車)



西山荘散策



好文亭から園庭をのぞむ



偕楽園(2号車)

バス2台に163名の希望があり幸運な90名を乗せ、7月14日（日）いばらき漫遊へと出発した。気の早い台風が通りすぎて、今日は暑くなりそう。イラン、バングラディッシュ、スリランカ、中国、台湾、カナダから親子、友だち、同僚など25人の外国の方々が参加した。初めて会う人々も、車内のゲームあり、おしゃべりありでうちとけるのにそう時間はかからなかったようだ。各国のことばによる挨拶や呼びかけで心もリラックスした。

「西山荘」ではボランティアガイドによる日本語と英語の説明があり、小グループに分かれて散策した。緑濃く苔むした黄門様のご隠居所の質素なたたずまい、逆からみる「心」の池など興味深かった。「偕楽園」に移り昼食。食事のときの会話がさらに知り合うきっかけとなり、1号車、2号車の枠を超えた楽しい雰囲気漂った。園の中ほどにある優美な建築物「好文亭」から望む広大な緑の色の様々なりあわせにしばしのあいだ見入ってしまった。

コースに分かれて「アクアワールド」東洋一の水族館見学と「マリンタワー」太平洋の大パノラマ大洗の海を見渡しそして海の中の生物たちと出会う、どちらに行っても新しいいばらきを感じたのではないだろうか。

旅のさいごのお楽しみ…さかな、さかなの歌に誘われ「おさかな市場」でお買物。

一日たっぷりのいばらき漫遊バスツアーは初めて参加した人にまた来年もの気持ちにしてくれたし、何度か参加している人にも新たな出会いと楽しい旅を味わわせてくれたし、スタッフの方々には企画した喜びが感じられるステキなツアーであった。

7時30分、定刻に市役所到着し解散となった。

市民夏まつり

小さな国際親善私達の手でやってみよう！

今年の市民夏まつりは、前日の雨と当日は台風の影響で天候が雨模様との予報から実行が危ぶまれたが、幸いにも早朝から雨も上がり予定通り貝柄山公園で行われた。

KIFA ブースでは朝から飾りつけが行われ、国際色を盛り上げる万国旗のほかに、新しく今年はブース入り口に横断幕「小さな国際親善私達の手でやってみよう！」を張って、会場にこられた市民の皆さんに私たちの活動をPRしました。

ブースは昨年同様よしずで囲って、その中に KIFA クイズの参考資料となる活動内容を紹介した案内のイラスト

ト図、市内在住の外国人出身国の国旗を貼り付けた世界地図、鎌ケ谷市と周辺市町に居住する外国人との人数比較チャート、各国語（英語、中国語、ドイツ語、スペイン語 etc）による簡単な挨拶言葉を紹介したチャート、民族楽器の説明パネルなどを多数用意展示して来場者を迎えた。

今回の新企画としては、民族楽器の展示と実演が、例年人気のある「KIFA クイズ」の合間に催されて、会場内を往き来する多くの一般市民の関心を集めた。



外国人スタッフと子供達



KIFA ブースに立寄った外国のお友達



中国二胡の調べ



ペルーの楽器ケーナの演奏

アトラクションとして会員による中国二胡の演奏でなじみの「夜来香」、ペルーのケーナ（縦笛）でアンデス地方の音楽「コンドルは飛んで行く」が好評で、来場者の中にはブース内に置いた椅子に座って、じっくりと聞き入る年配のご婦人や男性達がおられた。

フリオさんによるケーナ演奏では、珍しい民族衣装と縦笛に引き込まれて多くの市民がブースの前に人垣を作って、民族音楽を楽しみました。

クイズの催しは、前半と後半に分けて二回参加の呼びかけを行った。呼びかけには会員の応援も含めて、積極

的な市民への呼びかけが功を奏して家族連れの方や、小中学生が多数クイズに挑戦した。また会場に立寄られた在住外国人の方々もブース訪問の記念に KIFA のハッピーを着て写真撮影をしました。外国人の中には以前日本語講座で勉強された生徒の方もおられて久しぶりに再会して、楽しい会話を弾ませていました。

今年の夏まつりは、実行委員会の新しいイベント企画が市民の皆さんに受け入れられ、苦労は多かったがメンバー全員時間の経つのも忘れるほど楽しく、有意義な夏まつり参加であった。

「市民の森」でバーベキュー

身近な国際親善を体験



昨日の大雨が嘘のように、朝から晴れ上がり今年の「KIFA バーベキューパーティ」は深い樹木に包まれた「市民の森」キャンプ場にて9月29日（日）開催されました。

キャンプ場中央やその周りに配置された各バーベキュー用コンロの前で、参加者がそれぞれ持参した食材、飲み物、食器などを広げて早速バーベキュー料理にとりかかっていた。会場には小さな子供さんを連れたご家族や国際結婚をされたご夫婦、KIFA 会員、外国人会員やその家族・知人など多くの方が集まりました。

フィリピン、バングラディッシュ、スリランカ、中国、ペルー、スウェーデン、イランなど各国出身のお友達が集い、国際親善を身近に体験するバーベキューパーティとなりました。参加者はお互いに各テーブルを廻りながら、食べ物を交換したり、お酒を注いだり、写真を撮ったりと、和気あいあいの中で会話が弾み、日本人と外国人との楽しい国際交流が自然に始まりました。

また、参加されたフィリピングループのメンバーの方々は持ち前の陽気さと無類のホスピタリティで、持参のフィリピン音楽に合わせて広場でダンスを始め、それに多くの参加者が引き付けられてダンスの輪に加わりました。

終了予定の午後3時頃には、各テーブル共に持参の食べ物、飲み物もほぼ無くなって、バーベキューパーティを存分に楽しみ、来年の再会を約して三々五々解散となりました。

大草原をわたる馬頭琴と古箏の調べ

10月20日（日）午後2時から市総合福祉保健センターにおいて、馬頭琴（ばとうきん＝モリンホール）と古箏（こそう＝中国琴）の演奏会が行われた。馬頭琴は頼玉龍（ライ・ハスロー）さん、古箏は女流演奏家のタラーさんである。モンゴルの代表的な民族楽器から流れるその清々しい音色は、視聴された皆さんに素晴らしい安らぎと感動を与えるものとなった。

モンゴル自治区出身の頼玉龍さんは8歳から馬頭琴に親しみ、1991年にモンゴル人民共和国で文化芸術賞を授与されると共に、1995年には中国一級演奏家の称号も与えられ、内外ともに認められた馬頭琴演奏家であり作曲家でもある。曲の紹介と進行は奥さんの小山内玲恵子さんが担当だ。北京での馬頭琴の先生が玉龍さんだった、というから呼吸はピッタリである。タラーさんも幼い頃から琴とクゴ（中国古代楽器）に触れ、北京、南京などで活躍した。

馬頭琴は弦が2本で三味線と同じような形状をしており、その先端には、名前どおり馬の頭の彫刻がなされている。弦の太さが違い一方は120本、もう一方は80本もの馬のシッポの毛を使用して作られている。弓もバイオリンと同じように馬のシッポの毛を用いている。また古箏の弦は21本、日本の琴と異なりスチール製である。



この日に奏でられた演奏曲目は玉龍さんやタラーさんの独奏に加え、お二人の合奏を含めて20曲近くにのぼった。玉龍さんは、哀愁に満ちたモンゴル各地の民謡を次々と奏でていく。これが「草原のチェロ」と呼ばれる由縁なのか。人々は目を閉じて大草原に思いをはせる。自身で作曲したラクダをモチーフにした曲では、軽快にユーモラ



スに走るラクダの楽しい情景を表現する。タラーさんも優しく、時に激しく古箏の味わいを聞かせてくれた。

アンコールに応えての「北国の春」「草原情歌」を最後に、200名を超える方々は帰路についた。

ワカタネロングステイを終えて

大場 郁美さん (大学4年生)

今回、私がワカタネロングステイに応募したのは、大学生活最後の夏休みに、学生の内ではできないことをしようと考えたためだ。期待と不安が入り混じる中、出発日を迎えた。

NZで私がホームステイする先の家族構成はホストマザーと中国人の留学生の女の子であった。

最初は緊張のためか、全く英語を聞きとることができなかった。ホストファミリーは、私にとっては本当の家族ほどに居心地がよく、理解し合う気持ちが強かったもので、何でも話すことができた。最初の一週間は何度も繰り返し話してもらい、私も何度も説明しなければ通じなかった。何度聞いてもわからなかった言葉は、私用に作ってもらったノートに書いてもらい、辞書を引くこともあった。さらに思いがけないことに中国人の女の子とは漢字を用いて意思疎通をするなど、一風かわった国際交流や、NZ・日本・中国のそれぞれから見た世界観など、かけがえのない時間を過ごすことができたと思っている。

この旅で一番重要だと感じたことは、積極性である。伝わらないことに対してひるまずに行動すれば、英語力は身につくものである。英語力のみでなく、自己成長をすることができた。



ワカタネ高校のクラスメートと



ニュージーランドにて

山田 宏美さん (大学1年生)

ニュージーランドではたくさんの発見がありました。ラグビーが思っていた以上に盛んで (実際のところはラグビー人口よりもサッカー人口の方が多いらしいですが)、土日は必ず何処かのラグビー場で試合があり、平日もテレビでゲームを見ることができてとても楽しい時間を過ごすことができました。

人間の数よりも羊の数の方が多いという噂は本当でしたが、ワカタネ地方には羊よりも牛の方が多いようです。ニュージーランドでの一番の思い出は大自然でした。特に夕日は毎日違った色で美しく空を染め、ほんの数十分の間でしたがその日の嫌なことも全て忘れられるすてきなひとときでした。

家屋は日本のように混み合っていることもなく、ほとんどが平屋なので視野もとても広がっています。夜中には天の川を見ることができました。日本ではあまり見られない南十字星も綺麗に見え、ホストファミリーも言っていました、あの星空を見ていると自分の存在がとても小さく思えてきました。

オークランドなどの都市では見ることでない、ニュージーランドの大自然をワカタネでも十分に満喫することができました。

“夕陽と天の川と南十字星の国”

——先住民マオリに学

7月19日～8月14日にわたる27日間のワカタネ
彼らにとってどんな27日

青少年ワカタネロングステイ派遣を終えて

寄田小百合さん (高校3年生)

NZの食べ物全部おいしかったです。ワカタネの地図を持っていたので、一人で地図を見ながら郵便局へ行ったり、スーパーやダウントウンに買い物に行ったりしました。一番大変だったのはシャワーです。日本と違って水が少ししか出ないし、長い時間使えないので慣れるまで大変でした。ホストファミリーとマオリの博物館や羊の毛刈りショーを見たり、生まれてはじめてBull (雄牛)に乗ったりしてとても楽しかったです。

ワカタネ高校では毎日、日本人だけの英語の授業が2時間、日本語の授業が2時間、体育か英語の授業が決められていて、それに従って行動していました。日本語の授業では日本語を学んでいるNZの生徒たちに日本語の数字の言い方や書き方の練習を手伝ったり、折り紙を教えてあげたりもしました。最初はなれない環境に戸惑うことも多かったけれど、日本では決してできないすばらしい体験がたくさんできて毎日楽しかったです。

NZの高校は日本と全然違ってとてもものんびり自由に学習している感じがしました。また生徒達は授業中、発言するのがあたりまえという感じで生徒たち自らが学んでいる姿勢だった。今回のロングステイで自分の伝えたいことがなかなか思うように英語で伝えられないことがとても悔しかったので、英語をもっと勉強してもう一度ホストファミリーに会いにNZへ行きたいです。



ワカタネ市長ご夫妻とともに

左から川田、山田、大場、濱野、寄田、古山、金子

宝物

金子 真弓 (高

本当に楽しかったと自信を持って言えるようになりました。向こうでは「友達にならずに英語を話さないと生活できないので、自信がなくなるので、英語への恐怖感のようなものになりました。また、ワカタネの大自然にもゴミのない青い海。プラネタリウムくもりました。そしてそこに住んでいる心で生きて改めて感じました。

青少年ワカタネロングステイ

んだ友達づくり

ロングステイに7人の若者が参加しました。
だったのでしょうか？

マオリに学ぶ友達づくり

古山 未来さん（高校2年生）

私のワカタネでの一ヶ月、それは今まで一度も出会ったことのない経験の連続だった。ステイ先ではただの観光にとどまらない色々な場所へ連れてってもらい、たくさんのNZ文化をこの目で見る事ができた。

先住民マオリの伝統的な歌や踊りを間近で見られたことは幸運としか言い様がない。外国人に好意的なNZの人々の中でも、マオリは際立って愛想良く接してくれる。

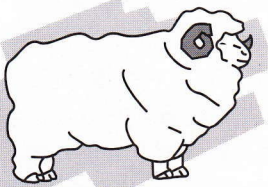
人種の違いについて述べるならば、大部分のNZ人には多少なりマオリの血が入っていて、純粋な非マオリ（これをマオリ語でパキハと言う）は純粋なマオリと同じくらい数が少ないのだという。つまり言葉通り二つの文化の融合がほぼ完全な形で成されているわけだ。このような背景が他の国と一味違った平和で友好的なお国柄を作っているのではないだろうか。

私はこうしたパキハとマオリの共存に感動すると同時に、彼らの在り方に対して強い憧れを抱いている。

私達も、相手を誇りに思えるような国際親善を続けていきたい。そのためには私はまだまだ日本について勉強することがたくさんあると思いしらされた。

まずは身近な友人の、自分と違うところを受け入れることから始めよう。

本当にこの一ヶ月は充実した日々だったと思う。



ステイ先の子どもたちと



ホストファミリーのジャッキーと

2年生)

「また必ず行きたいです。このホームステイで、英語への考え「ための手段」という感覚で過せました。ホームステイ先では英語なくても、文法が合っても間違っているのかととにかく話なくなり、逆に習った英語を早く使ってみたいと思えるようになりました。お所がたくさんありました。

満天の星、五分見ていれば一つは流れ星を見つけることが。温かい人達。日本には今そういう物が欠けてきているなど、帰っ

思い出をたくさんありがとう

濱野 由宜子（高校2年生）

親元を離れる旅行は、修学旅行と合宿だけの私が突然4週間の海外生活。夢にまで見ていたホームステイに舞い上がる気持ちそのままに成田を飛び立ったのは2002年7月19日。英語力はほとんどないし、度胸と愛嬌で乗り切ろうと思っていたが……。

ワカタネ空港で迎えてくれるはずのホストファミリーは都合で来れず、不安な出だし。英語力に乏しい私は、少々厳しいホストファザーに慣れるまで、緊張の連続であった。私がお世話になった家は5才、3才、1才のかわいい子供達がいたのだが、本当にかわいい彼らには随分と助けられた思いがする。

しかし今思うと英語より擬態語を使った方が多かったような気がする。ママにしかかれても私の部屋で一緒に寝ようとしてくれた彼らに、彼等は覚えていなくても私は絶対に忘れない時を持てたこと、そして思い出をたくさんありがとうと伝えたい。優しいママにも感謝の気持ちでいっぱいである。夢のような貴重な4週間であった。



ロトルアのワイオタイプで

文化の違い

川田 秀一（高校2年生）

ワカタネに着き、初めに気付いた事は、2階建ての家が少ないという事だった。あとで尋ねてみると、海沿いや大通りの近く以外はいくらか平屋があるが、それでも地下があったりするので、2階建てと変わらないと言っていた。

毎週日曜日の朝には、教会に連れてってもらった。カトリックの教会の情報誌や、地域のパンフ等がたくさん配られていて、やっぱり外国は宗教がさかんだというのを実感した。

教会から帰って、遅い朝食を食べていると、日本の神道等の宗教について聞かれた。

ニュージーランドではラグビーが大人気だった。オールブラックスの試合がある日には、ホストファミリーの友達が大勢集まって、ちょっとしたパーティみたいな感じでTVの試合を見ていた。滞在中に、スーパーマーケットに行くことが何度かあったのだが、野菜のコーナーはやたら多い量がズラッと並んでるし、スナックや調味料等、店の中心にある物は天井の方まで商品の箱が積んであるし、肉のパックはラジカセ大のブロックがゴロゴロしている。しかも日本より断然安いので、少し買いすぎてしまう。

今回のホームステイでは、本当に色々な事を学んだ。機会があればまたNZを訪れてみたい。



ワカタネ高校の学生たち

私の故郷 ～瀋陽～

李 惠敬 (松戸市在住)

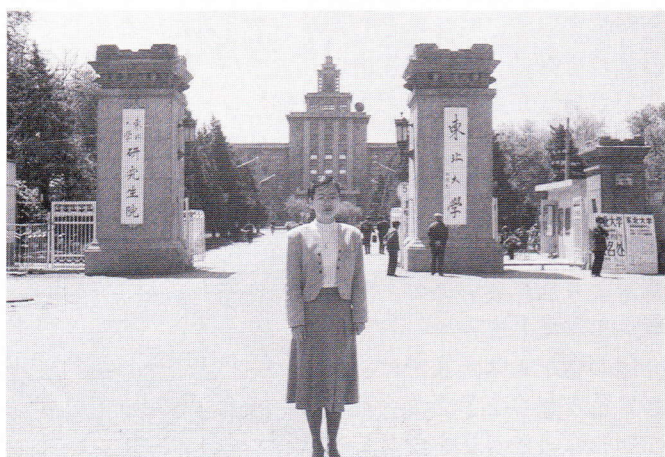
来年の春、ふるさと瀋陽へ行ってくるつもりですが、その時には私が小学生の頃から住んでいた家が都市の再開発でなくなっているそうです。ふるさとの街の発展を喜びながらも、一方、懐かしい景観の消えることには寂しさもあり、私の心の中では複雑な気持ちが錯綜しています。

中国・東北部に位置している瀋陽は、夏は暑く、冬はとても寒いところですが、豊かな黒い大地は人々の生活をささえています。冬は零下20度まで下がる気候で積雪は多く、車の排気ガスで溶けた雪はまた凍り、道路は鏡のようにつるつると滑ります。自転車に乗る人はまるで、サーカスの名人たちみたいで、今思うと、よくそんなところで自転車に乗っていたなと感心するほどです。

(でも国へ帰ると、また乗るでしょうね)

瀋陽は、古くから東北地区の中心地として栄えていました。その後、清朝が興った地でもあります。清の太祖ヌルハチと太宗ホンタイジが1637年から1644年までの間、国都「盛京」を置きました。北京に遷都後は「奉天府」となり、1914年に瀋陽となりました。その後、旧日本軍が占領し再び奉天と呼ばれるようになりました。戦前生まれの日本の方たちには、山東半島の港湾都市・大連とともに、「奉天」の名前に聞き覚えがあると思います。瀋陽には今でも戦争中に建てられた日本式建築が残っているのです。瀋陽駅の赤レンガの建物は東京駅の丸の内口にそっくりで、駅前の通りは「太原街」と市民に親しまれ、瀋陽市のひとつの中心繁華街になっています。1949年の新中国建国以後、1954年には瀋陽という名前に戻り、遼寧省の省都、重工業都市として栄えてきました。

瀋陽にはまたもう一つ、清朝の故宮があります。北京の故宮を見られた方は、瀋陽故宮の広さや建物等が北京故宮と比べ、その豪壮さにおいて著しく見劣りするのに驚かれるでしょう。しかし、それは、清朝が北京に入る(入関)までの宮殿であり、北京を都としてからは、各



母校校門前にて

ター ジャー ハオ

大家好! (みなさん こんにちは)



李 惠敬さん

ハルピン

◎瀋陽

北京

天津

大連

旅順

上海

皇帝が先祖の墓参と出身地を巡る(東巡)際に立ち寄るに過ぎない陪都(副都)の宮殿であったからです。それでも大清国の皇帝が必ず立ち寄るところから、北京故宮風に整備されたものです。

瀋陽の中心地は故宮の裏側の「中街」という通りで、多くの商店が立ち並ぶ最大の繁華街になっており、「老辺餃子」や「李連貴大餅」のお店の「餃子宴」、「吊炉餅」などは、観光客や市民にも大人気があり、とても賑やかです。

また、太宗ホンタイジ(皇太極)と皇后のお墓である昭陵(北陵)は北陵公園として市民に開放され、清の太祖ヌルハチ(努尔哈赤)のお墓福陵は東陵として観光地となり、瀋陽の名所で国内外の観光客が必ず訪れるところとなっています。

瀋陽は日本との交流を大切にしています、中山広場には、日本語を習う人達が自然に集まって日本語で会話の練習をしています。瀋陽にいらっしゃる機会がありましたら、ぜひ寄って(時間は夜8時頃から11時過ぎまで)みて下さい。

(注) 李惠敬さんは昨年に引き続き、今年も KIFA の中国語講座の講師をされています。

パラリンピックをめざして

荻野 晃一（鎌ヶ谷在住）

私はスウェーデンで開催された「第3回 IWRF ウィルチェアーラグビー世界選手権」に出場する為に2002年5月25日（金）～6月6日（木）の間、日本代表選手の一員として海外遠征に行ってきました。成田を出発し10～11時間後にデンマークで乗り換え1時間位してスウェーデンに到着します。



体育館の隣にある大学にて(右端が荻野さん)
(昼食、夜食はここで用意され食事をする)

車椅子利用者は、飛行機に乗る時は最初に乗せてもらい、降りる時は最後に降ろしてもらいます。私は今までにイギリスに1回、ニュージーランドに2回、そして今回と日本代表選手として海外遠征を行なってきて感じたのが、国や航空会社によって手際の良さが違い、機長自ら手を貸してくれる事もありましたが日本は手際が悪いと感じました。しかし、荷物などの取扱いは日本が良いと思います。

私の行った時期のスウェーデンは日が長く、朝4時頃から夜10時頃迄は明るかったです。気候は昼間日が射すととても暖かく、雨が降れば寒い為、街を歩く人は色んな服装です。大会の参加国は、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、スウェーデン、イギリス、ドイツ、スイス、オーストリアの12か国です。このうち初出場は日本チームだけでした。

日本チームは海外遠征や国際試合の経験不足なのですが、結果として目標であった2年後に開催されるアテネパラリンピック出場に近づける世界ランキング8位の結果を得られました。これから日本チームに必要なのは、経験不足である海外遠征と国際試合参加ですが、日本選手のほとんどが職に就いており休暇の問題です。金銭的な問題もあります。海外の選手は職に就いていない人が多く、金銭的にも助成制度が優れております。そして一番の問題が英会話です。それぞれの国の選手が英語でコミュニケーションをとっているのですが、日本人だけが話せず、話し掛けられても答えられず、もどかしい思いをしました。英語が話せたらもっと楽しく、もっと満足した遠征になると思います。スウェーデンは基本的にはスウェーデン語なのですが、子供の頃から英会話の授業があるらしいです。ドイツなども同様です。英語のできるボランティアの方を随時募集していますのでご連絡ください。もちろん車椅子ラグビーに興味がある方ご連絡ください。



白熱の日本対スウェーデン戦

《ウィルチェアーラグビーって何ですか？》

四肢麻痺者等（頸椎損傷や四肢の切断、脳性麻痺等で四肢に障害を持つ者）が、チームスポーツをする機会を得るために1977年カナダで考案され、欧米では広く普及している車椅子による国際的なスポーツです。2000年のシドニー大会よりパラリンピックの公式種目となりました。

《競技内容はどのように行なわれますか？》

ラグビー・バスケットボール・バレーボール・アイスホッケー等の要素が組み合わされており、バスケットボール用のコートで行ないます。専用の車椅子を使用し、相手の車椅子を止めるためのバンパーや、相手の車椅子から逃れるためのウィングが取り付けられています。ボールはバレーボール球を使用します。

蹴ることを除いて運ぶことができ、投げたり手で打つことによりパスをしたり転がしたり、バスケットボールのようにドリブルを行なってもよく、いかなる方向へも持ち運ぶことができます。パスは通常のラグビーとは違い、スローフォワード（前へのパス）が認められています。

タックル（相手の車椅子に自分の車椅子を衝突させたり引っかけたりすること）により相手の攻撃を阻止することが認められています。

《選手構成は？》

競技者は4名で車椅子の操作やボールを扱う能力（障害のレベル）により0.5点・1.0点・1.5点・2.0点・2.5点・3.0点・3.5点の7クラスに分類され、競技中はコート上4選手の持ち点が8.0点を超えてはいけません。

Notice

[KIFA パーティ 2002]

日時 11月23日 (土) 13時～16時

会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 6F 大会議室
チケットはまだ販売中です。早めに事務局までお申し込みください。

[講演会]

日時 12月8日 (日) 13時30分～15時

会場 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター 6F 大会議室
講師 米原 万里さん (ロシア語同時通訳、エッセイスト)

演題 「ロシア人に学ぶ小咄の作り方」

[親子で英語に親しむ会]

2003年1月19日 (日) 10時～12時

場所 南部公民館

[料理講習会]

1月26日 (日)

[国別交流会]

スリランカ DAY 2月2日 (日)

[語学講座合同閉講式]

2月9日 (日)

場所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター

We did it

[ホームステイ受け入れ]

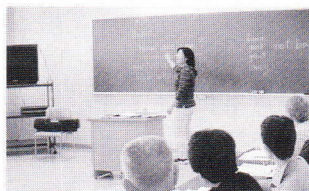
KIFA は7月、鎌ヶ谷市中学生野球連盟主催による少年軟式野球の国際交流として来日したアメリカ選手団17名のうち役員3名、選手1名のホームステイを実施しました。ホームステイとは、国際交流事業の一環として平成2年から実施している一般家庭への外国人受け入れのことです。受け入れは登録制となっていますので、登録をご希望の方は事務局へお申し出ください。随時受付しています。

[先生の社会体験研修受け入れ]

五本松小学校三好由里子先生が「夏まつり実行委員会」に参加されました。実習期間は8月6日 (準備のため) と24日 (夏まつり当日) の2日間でしたが、先生はブースに来場された市民や子供達に積極的に働きかけ、KIFA 活動のPRに貢献されました。

[フレンドリー英会話講座の開講]

60歳以上の方を対象とした当講座は、増田千佳先生のご指導により、10月3日から12月5日まで、「まなびいプラザ」にて毎週木曜日に開講されています。受講者は24名で、昔学校で教わったことを思い出しながら、楽しく勉学に励んでいます。



(受講者から) 長女や孫は英会話ができるし、アメリカにも夏休みに家族で旅行したりしています。私も1～2年の間に行く予定ですので、多少の挨拶ぐらいと思い当講座に申し込みました。受けてみて、発音が聞き取れなかったり、次の事にはいると前の事を忘れていたり、右脳の衰えを感じました。でも、頑張りたいと思います。

<Terue Kashiwagi>

[日本語ボランティア養成講座の終了]

5月18日から8月4日まで松本明子、川端芳子両先生の日本語ボランティア養成講座全12回が終了しました。10回以上の出席者に修了証書が発行され38名の受講生のうち33名が受領されました。「日本語講座」の見学 (希望者)、ボランティアの登録を経てこれからの活躍が期待されます。

日本語講座は火曜日夜7時30分から中央公民館で開講しています。

[KIFA ホームページの全面更新]

このたび「親しみの持てる、訪れて楽しいホームページ」を基本コンセプトとしてコンテンツの全面的な見直しを図りました。KIFA 活動の概要、イベント開催状況など最新の情報をご覧いただく事ができます。

インターネットホームページのアクセス先は

<http://www.kifa.gr.jp> です。



編集後記

新たな試みのもとに KIFA Plaza 第46号を作成いたしました。みなさん、11月23日 (土) KIFA パーティでお会いしましょう。
(C.W)